

## 総合交通戦略 評価検証シート（定性的）

事業名	交通決済キャッシュレス化事業		担当課
			交通ネットワーク課
戦略	1	持続可能な公共交通体制の構築	
指標	1-1	交通手段分担率（自動車）	
現状値（R1）	目標値（R7）		直近の数値
68.5%	66.5%		
取組方針	公共交通へのキャッシュレス化を進め、さらにMaaSの推進を目指すことで、将来の公共交通の更なる利便性向上を図ることとします。		

施策	主な事業
運行環境の整備・利便性向上	公共交通のキャッシュレス化と運賃政策（重点事業）

## R5年度までの経過

4 .	4	タウンズニーカー4路線で実証実験を開始（年内8カ月でスタート）
5 .	1	市議会建設環境委員協議会で事業の進め方について協議
	2	デジタル田園都市国家構想交付金（国庫補助）に松本市、山形村及び朝日村の1市2村地域間連携で申請
	3	デジタル田園都市国家構想交付金事業採択
5 .	6	交通キャッシュレス決済システム購入選定プロポーザル審査会を開催し、優先交渉先（（有）和晃：「チケットQR」及び「クレジットタッチ」）を選定
1 1		チケットQRをぐるっとまつもとバスの全路線（市営バスを含む78台）に拡大し、本格運用を開始
	2	クレジットタッチ決済機能を拡充したサービスを開始 2月定例会一般質問の答弁で、令和8年春に向け、交通系ICカードを整備していく方針を公表

## R6年度を取組内容

事業費（決算見込：千円）

14,890

6 .	4	市議会建設環境委員協議会で交通決済キャッシュレス化事業の進捗状況を報告 キャンペーン結果、アンケート結果
	7	市議会建設環境委員協議会で地域連携ICカード導入の取組状況について報告
	9	地域連携ICカード導入に係る経費について9月補正予算に計上（R7年度債務負担）
1 0		地域連携ICカード導入に係る松本市、アルピコ交通、JR東日本基本協定締結
1 1		地域連携ICカード導入に係る松本市、アルピコ交通、JR東日本プレスリリース クレジットタッチ決済のバージョンアップ（速度改善、スマホタッチ対応） 「ぐるっとまつもとバスタッチ」をキャッチコピーにプロモーションの展開
7 .	1	JCBタッチ30%キャッシュバックキャンペーン開始（1/16～3/16）
	2	地域連携ICカードシステム導入プロポ実施、優先交渉先選定としてレシップ㈱を選定

## R6年度の主な成果

<p>Suicaなど交通系ICカードが利用できる「地域連携ICカード」の導入方針を正式決定し、所要予算の計上から優先交渉先の選定まで行った。 また、関係機関となるアルピコ交通、JR東日本、長野県との打合せを複数回実施した。 クレジットタッチ決済機能のバージョンアップに当たり、松本山雅とのコラボによるプロモーションを展開。駅お城口への横断幕、タペストリーの設置、バス停掲示を行った。 キャッシュレス利用率は、年度当初（4月）の5.47%から9.29%（1月）に上昇 利用者満足度（タッチ決済の使いやすさ）では満足度84%（使いやすいと回答）</p>
--

取組内容の写真



【お城口バス停タペストリー】



【タッチ決済（手前）とチケットQR（奥）】



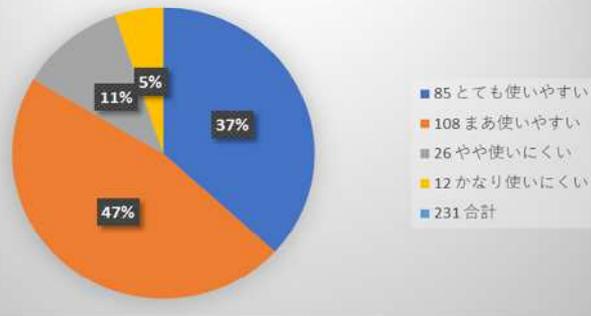
2024年11月5日  
 松本市  
 東日本旅客鉄道株式会社  
 アルピコ交通株式会社

「ぐるっとまつもとバス」における「地域連携 IC カード」システムを利用した  
 IC 乗車サービスの提供について

○松本市（市長：飯沼 善尚）、東日本旅客鉄道株式会社（東京都港区 代表取締役社長：西勢 肇一）、アルピコ交通株式会社（長野県松本市 代表取締役社長：小林 史成）は、「地域連携ICカード」システムを利用したIC乗車サービス「ぐるっとまつもとバス」について合意しました。  
 ○SuicaやSuicaと相互利用可能な他の交通系ICカードを「ぐるっとまつもとバス」とご利用いただけるようになります。  
 ○今後、2024年度末以降、井原や大糸線等におけるSuica利用可能駅の拡大も予定されており、交通系ICカードのご利用により、便利で快適な公共交通での移動を提供します。

【地域連携 IC カード基本協定】

タッチ決済使いやすさ（全体）



【タッチ決済利用者満足度】

R6 年度までの課題と今後の方針

令和7年度を計画年度としたバスのキャッシュ化率の目標値を40%としていますが、徐々に浸透しつつあるものの、令和7年1月末時点で約9.29%にとどまっています。キャッシュレスの利用から得られるデータを活用し、施策に反映していくため、更なる利用増が課題です。  
 現在検討中の「運賃政策」において、キャッシュレス優遇策を検討しています。  
 令和8年春の地域連携 IC カード導入も踏まえ、利用拡大を図ります。

総合交通戦略 評価検証シート（定性的）

事業名	路線バス公設民営化事業	担当課
		公共交通課

戦略	1	持続可能な公共交通体制の構築
----	---	----------------

指標	1-1	交通手段分担率（自動車）
----	-----	--------------

現状値（R1）	目標値（R7）	直近の数値
68.5%	66.5%	

取組方針	公共交通サービスを維持していくため、公共交通の公設民営体制の検討に際して、行政も主体的に関わっていくことにより、持続可能な公共交通体制の構築を目指します。
------	---

施策	主な事業
公設民営体制の構築	公設民営体制の構築（重点事業）

R5年度までの経過

3. 1 2	路線バスの新たな運行制度及び路線再編の素案を作成
4. 1 2	再編内容、運行水準等の確定
5. 4. 1	運行事業者3者と協定を締結し、路線等の再編を行った、公設民営ぐるっとまつもとバスの運行開始
9. 2 9	「松本地域公共交通計画」の一部改定及び「松本地域公共交通利便増進実施計画」を松本市、山形村及び朝日村と策定
10. 1	アルピコ交通との5年間の協定によるエリア一括長期運行を開始
11. 1 1	R5年秋のダイヤ改正を実施
6. 3. 1 6	R6年春のダイヤ改正を実施

R6年度の取組内容

事業費（決算見込：千円） 344,200

6. 4～9	アルピコ交通(株)と利用促進策及び運賃政策の方向性について協議（計9回）
10～翌1	運行事業者とR7春のダイヤ改正内容について協議（計2回）
11～翌2	信州大学及びアルピコ交通と利用促進に関するワークショップを実施（計3回）
12	毎年度、小学校で開催している「バスの乗り方教室」への参加児童を対象に小児無料乗車券「こどもおでかけチケット」を配布（11校 808人）
12～翌1	神林ライナーの利用状況について、神林地区町会長会と共有し、今後の方向性について協議し了承（計2回）
7. 2. 10	大久保工場団地線と神林ライナーの統合について、住民説明会を開催
3. 1 5	R7春のダイヤ改正を実施予定
2 3	アルピコ交通と連携し、R7春のダイヤ改正に係る周知イベントを開催予定

R6年度の主な成果

(1)	R7春のダイヤ改正で、利用者が低迷していた神林ライナーと大久保工場団地線を統合し、地区住民の足を確保しながら、効率化を図りました。
(2)	観光客に対し松本城から美術館への路線バスによるアクセス方法を周知すべく、チラシ及び実際の経路を撮影した動画を作成しました。
(3)	信州大学及びアルピコ交通と連携し、学生向けのワークショップを開催し、利用促進の取組みを研究するとともに発表を行いました。
(4)	「バスの乗り方教室」への参加児童を対象に、小児無料乗車券「こどもおでかけチケット」を配布し、児童のバス乗車機会の創出を図りました。

取組内容の写真



【ダイヤ改正】



【松本城→美術館アクセス誘導チラシ】



【ワークショップ】



【こどもおでかけチケット】

R6年度までの課題と今後の方針

- (1) R5年度と比較し、バス利用者は増加しています（R7年1月現在）。一方、コロナ禍前と比較すると9割には満たない状態であり、公共交通における喫緊の課題として受け止めています。バス利用者数を増やすための効果的な運賃体系の見直しを進めています。（R7年度施行予定）
- (2) 運行事業者のドライバー不足が全国的に深刻化しています。運転手の確保は、制度上、運行事業者が行うこととしていますが、運転手確保の雇用状況を注視するとともに、公共交通に対するイメージアップと理解度を深め、バス事業で働く人の人口を増やしていけるように、運行事業者と引き続き連携を図ります。

事業名	自転車の安全利用の促進	担当課
		自転車推進課

戦略	2	自転車の適切な活用の推進
----	---	--------------

指標	2-1	自転車関連事故の発生件数（10万人あたり）
----	-----	-----------------------

現状値（R2）	目標値（R7）	直近の数値
61件	45件	56件（R6）

取組方針	自転車の利便性を高め、利用を増加させるとともに、歩行者等の安全を確保するため自転車利用に際しての安全な環境をソフト・ハード面で整備します。
------	---

施策 主な事業

歩行者や自転車事故のない安全で安心なまちづくり	自転車の安全利用の促進
-------------------------	-------------

R5年度までの経過

R4 自転車利用の多い時間帯、場所で広報啓発活動を行い、自転車の安全利用を促進しました。 R5 自転車利用の多い時間帯、場所で広報啓発活動を行い、自転車の安全利用を促進しました。 利用者の多い高校に赴き、高校生とともに安全利用の広報啓発活動を行いました。
---

R6年度を取組内容

事業費（決算見込：千円）

8,470

<p>(1) 小学生運転免許証交付事業 市内の小学4年生（1,904名）に対し、交通安全教室とミニテストを実施し、自転車免許証を交付</p> <p>(2) 市内高校に対するスクエアードストレイト交通安全教室 スタントマンによる事故再現を通じて、交通安全意識を向上（5校）</p> <p>(3) 交通安全の専門家による指導 自転車のルール・マナーについての講習を実施</p> <p>(4) ヘルメット購入補助事業 高校生と高齢者を対象にヘルメット購入の費用を補助</p> <p>(5) 街頭啓発 市内の主要交差点で年間24回実施（うち副市長参加8回） 特にヘルメット着用率が大幅に向上 R5 19.8% → R6 38.5%</p>
---

R6年度の主な成果

<p>(1) 小学生に正しい自転車の乗り方や法規等の基礎知識を身に付けてもらい、自転車利用時の交通安全意識の高揚を図ることができました。</p> <p>(2) 高校生に対し、自転車の安全利用促進を図り、交通ルールを順守することの大切さを実感してもらうことができました。</p> <p>(3) 子どもからお年寄りまでにわたって交通安全に対する教育・啓発を行い、交通ルール順守及び交通マナー向上への市民意識の醸成を図ることができました。</p> <p>(4) 高校生・高齢者へのヘルメット購入補助により、ヘルメット着用を促進し、交通事故発生時の生命・身体の保護と交通安全意識の高揚を図ることができました。</p> <p>(5) 自転車安全利用の呼び掛けにより、自転車利用者による交通ルール無視及びマナー違反に対する各種対策に加え、自転車等の運転者には、歩行者に対する保護意識の高揚を図ることができました。</p>
--

## 取組内容の写真



【深志2丁目交差点での啓発活動】



【高校生と連携した啓発活動】



【シェアサイクル安全利用の協定締結】



## R7年度までの課題と今後の方針

- (1) 交通事故の増加  
新型コロナウイルスによる行動制限が緩和された影響で、令和5年以降、事故が増加傾向にあり目標を大きく上回る結果に。
- (2) 全体的には減少傾向だが依然として高水準  
行動制限前と比べると減少しているものの、全交通事故の2割以上が自転車関連という高い水準
- (3) 関係団体協力して啓発活動を継続  
地域の団体と連携し、安全意識を高めるための活動を継続
- (4) 高校と連携し、自転車の安全利用・ヘルメット着用を推進  
市内高校と協力し、ルール順守やヘルメット着用向上に向けた取組みを強化